



Y.Machida

THE CHALLENGE CUP

第76回 チャレンジカップ (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
付加賞 525,000円 150,000円 75,000円



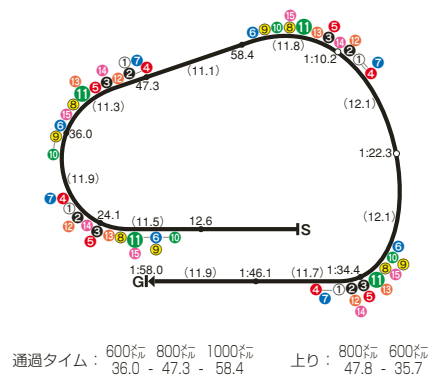
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

3歳以上、2024.9.7以降2025.9.7まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2025.9.13 阪神 曇・良 芝2000m (国際) (特招)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑪	オールナット	牡 4	56	J.モレイラ	1:58.0	11-9-10-9	34.5	524(±0)	4.7	② 高野友和(栗東)	108
2	⑫	グランヴィノス	牡 5	56	川田将雅	1	4-5-4-4	34.9	524(+4)	3.1	① 友道康夫(栗東)	106
3	②	マイネルクリソーラ	牡 6	57	C.ルメール	クビ	4-3-4-4	35.0	470(+2)	12.1	④ 手塚貴久(美浦)	107
4	③	サブマリーナ	牡 4	57	武 豊	クビ	9-9-9-9	34.8	480(±0)	5.4	③ 庄野靖志(栗東)	107
5	③	イングランドアイズ	牝 5	54	松若風馬	クビ	7-6-7-7	34.9	450(±0)	12.9	⑤ 安田翔伍(栗東)	
6	⑤	オニャンコポン	牝 6	55	菅原明良	クビ	11-12-11-11	34.6	466(±0)	41.1	⑩ 小島茂之(美浦)	
7	①	アスクカムオンモア	牡 4	56	西村淳也	クビ	3-3-3-3	35.2	494(-2)	16.9	⑧ 藤原英昭(栗東)	
8	④	タガノデュード	牡 4	54	古川吉洋	1¼	6-6-6-4	35.3	492(-8)	17.3	⑨ 宮 徹(栗東)	
9	⑤	ヴェルテンベルク	牡 5	55	吉村誠之助	クビ	7-8-7-7	35.2	482(+4)	22.6	⑩ 宮本 博(栗東)	
10	⑨	ジューンテイク	牡 4	57.5	藤岡佑介	¾	13-14-14-13	34.5	504(+12)	14.5	⑥ 武 英智(栗東)	
11	⑥	エアファンティタ	牝 8	57	亀田温心	クビ	13-13-15-15	34.5	446(-24)	116.8	④ 池添 学(栗東)	
12	⑥	カナフラ	牡 5	54	小沢大仁	1¼	15-15-13-13	35.1	448(-4)	49.6	③ 高橋康之(栗東)	
13	⑧	ドクタードリトル	牡 5	56	松山弘平	1	10-11-11-11	35.5	474(+12)	32.1	⑪ 今野貞一(栗東)	
14	④	ホウオウプロサンゲ	牡 4	55	菱田裕二	6	2-1-1-1	37.9	496(-4)	16.1	⑦ 矢作芳人(栗東)	
15	⑦	ショウナンマグマ	牝 6	55	池添謙一	3½	1-2-2-2	38.3	500(-10)	202.3	⑫ 尾岡知人(美浦)	

単勝⑪470円(2¼%) 複勝⑪180円(3¼%) ⑪140円(1¼%) ⑫270円(4¼%) ⑫270円(4¼%) 枠連⑥-⑦530円(1¼%)
馬連⑪-⑫910円(2¼%) ワイド⑪-⑫430円(2¼%) ⑫-⑪810円(5¼%) ⑫-⑫760円(4¼%)
馬単⑪-⑫1,830円(4¼%) 3連複②-⑪-⑫3,050円(3¼%) 3連単⑪-⑫-⑫12,720円(13¼%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
36.0 - 47.3 - 58.4 47.8 - 35.7

アラカルト

- ・ J.モレイラ騎手はチャレンジC初勝利。JRA重賞は本年5勝目、通算18勝目
- ・ 高野友和調教師はレイバババで制した20年に続くチャレンジC2勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算30勝目
- ・ サトノダイヤモンド産駒はJRA重賞通算4勝目
- ・ 4歳馬の勝利は24年ラヴェルに続く通算33回目

オールナット Allnatt

牡 鹿毛 2021.2.17生

北海道白老町 (南社台コーポレーション白老ファーム生産

馬主・南シルクレーシング 栗東・高野友和厩舎

馬名意味・有色な鮮黄色のダイヤモンドの名前。父名、母名より連想

ロイヤルサツシユGB系 F1-t

サトノダイヤモンド 鹿毛 2013	ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	マルベンサARG 鹿毛 2006	Orpen Marsella
キューティゴールド 栗毛 2004	フレンチデピュティUSA 栗毛 1992	Deputy Minister Mitterand
	ゴールデンサツシユ 栗毛 1988	ディクタスFR ダイナサツシユ

5代までのインブリード：Halo S4×S5 Northern Dancer M5×M5

INTERVIEW

市橋晃 厩舎長(白老ファームYearling)

「いつか重賞を勝てる馬」と聞いていました

イヤリングに来た頃から見栄えのする馬体をしていました。その頃のサトノダイヤモンド産駒は緩さが見受けられる馬が多いですが、本馬はしっかりとした動きで放牧地を駆け回っていました。体力面も豊富だったので、芝の長いところが合っているイメージもありました。育成先の厩舎長からは「いつか重賞を勝てる馬」と聞いていましたが、それが叶えられました。

N.Inaba



たし、良血開花を印象付けた。

GI2勝の名牝ショウナンパンドラの半弟にあたる本馬は、2歳時の10月に京都でデビューし、骨つばい相手(4着メイショウタバル、5着ウォータリヒト)を下して完勝。昨年暮れには2勝クラス戦に続いて3勝クラス特別を連勝し、オープン入りを果たした。昇級後の3戦はもうひとつ精彩を欠いたものの、札幌記念への出走が叶わず、目標を切り替えて臨んだ一戦でブレイクスルー。4歳の秋に重賞初制覇を果たし、良血開花を印象付けた。

父サトノダイヤモンド

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、仏18戦8勝(菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、阪神大賞典^{GII}、京都大賞典^{GII})、最優秀3歳牡馬、19年から供用〔代表産駒〕サトノグランツ(京都新聞杯^{GII}、神戸新聞杯^{GII})、シンリョクカ(新潟記念^{GIII})、オールナット(本馬)、サヴォンリンナ(忘れな草賞・L)、ビップデイズ(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}2着)、スズハローム(京王杯スプリングC^{GII}3着)、ダイシンラー(デリー杯2歳S^{GII}3着)、ダイヤモンドハンズ(札幌2歳S^{GIII}3着)

母キューティゴールド

北海道白老町 (南社台コーポレーション白老ファーム生産 中央5戦0勝。23年死亡 ショウナンパッカス(09 牝父フジキセキ)中央9戦1勝、地方2戦0勝

ショウナンパンドラ(11 牝父ディーブインパクト)中央18戦5勝(ジャパン

C^{G1}、秋華賞^{G1}、オールカマー^{GII}、糸魚川特別、宝塚記念^{G1}3着、ヴィクトリアマイル^{G1}3着、産経大坂杯^{GII}3着)、最優秀4歳以上牝馬

イルミリオネ(12 牝父マンハッタンカフェ)中央5戦1勝

スピアザゴールド(13 騏父ネオユニヴァース)中央25戦2勝、地方1戦0勝

ブルビネラ(14 牝父ヴィクトワールピサ)中央2戦1勝

ブルヴェルソン(15 牝父ダイワメジャー)中央11戦2勝

ボニーゴールド(16 牝父ディーブインパクト)中央2戦0勝

セントオブゴールド(17 牝父ディーブインパクト)中央14戦3勝(青嵐賞、山藤賞)

ローマンネイチャー(19 牝父ディーブインパクト)中央2戦0勝

アイリオン(20 牝父ブラックタイド)中央5戦0勝

オールナット 本馬(21 牝父サトノダイヤモンド)中央12戦5勝(チャレンジ

C^{GIII}、嵯峨野S、大坂城S・L3着)獲得総賞金105,236,000円

チェルビアット(22 牝父ロードカナロア)中央8戦1勝(フィリーズレビュー^{GII}2着、NHKマイルC^{G1}3着)⑧

オーロアルジェント(23 牝父シルバーステート)⑧

※10(生後直死)、18、24(不受胎)

祖母ゴールデンサツシユ

北海道白老町 社台ファーム生産 中央0勝。12年死亡、ステイゴールド(香港ヴァーズ^{G1}、ドバイシーマクラシック・首^{G2}、日経新春杯^{GII}、目黒記念^{GII})、

レクレドール(ローズS^{GII}、クイーンS^{GIII})、メルヴェイユドール(マーメイドS^{GIII}3着)の母、ドリームバースポート(神戸新聞杯^{GII}、きさらぎ賞^{GIII}、ジャパンC^{G1}2着、皐月賞^{G1}2着、菊花賞^{G1}2着)、ペルーフ(京成杯^{GIII})の祖母

鞍上に導かれ鋭い末脚で重賞初制覇

過去10年間の優勝馬にレイバレ(2020年)、ベラジオオベラ(23年)と、のちのG1ウイナーが2頭名を連ねるチャレンジCは今年、従来の暮れの開催から秋開催へ移設。負担重量もハンデ(17)24年は別定に改められた。1番人気に支持されたのは長期休養明けの3勝クラス特別を快勝した良血馬グランヴィノス。しかしシユヴァルグランをはじめ、姉に3頭のG1ウイナーを持つキタサンブラック産駒の前には、対抗候補と目されていたサトノダイヤモンド産駒オールナットが立ち上がった。

先手を主張したホウオウプロサンダに1コーナーでショウナンマグマが並

びかけ、2頭が雁行してレースを先導。前半から立て続けに11秒台のラップを刻んだ両馬をよそに、後続の各馬は自分のリズムを守って運び、グランヴィノスは離れた4、5番手を進む。オールナットのJ・モレイラ騎手は中団のインを追走。3番人気に支持された新潟大賞典の2着馬サブリナは、その外につけて仕掛けのタイミングを窺った。

激しく火花を散らした前の2頭は4コーナーで失速。直線に向くと3番手から差を詰めてきたアスクカムオンモアが先頭に立ち、グランヴィノスがこれをかわしにかかる。4コーナーから追撃を開始し、坂下で2頭の背後に迫ったモレイラ騎手はその内にボツカリと開いたスペースを狙ってスパート。巧みなハンドリングに応え、鋭い末脚を繰り出したオールナットが、先頭へ突き抜けて勝負を決めた。

GI2勝の名牝ショウナンパンドラの半弟にあたる本馬は、2歳時の10月に京都でデビューし、骨つばい相手(4着メイショウタバル、5着ウォータリヒト)を下して完勝。昨年暮れには2勝クラス戦に続いて3勝クラス特別を連勝し、オープン入りを果たした。昇級後の3戦はもうひとつ精彩を欠いたものの、札幌記念への出走が叶わず、目標を切り替えて臨んだ一戦でブレイクスルー。4歳の秋に重賞初制覇を果たし、良血開花を印象付けた。